041220

令和４年度　愛媛県立野村高等学校　第２学期終業式式辞

皆さん、おはようございます。私たちが住む美(うるわ)しく穏やかな野村の町も、寒い冬を迎えました。たくさんの学校行事のあった２学期が、今日で終わります。私は２学期の始業式で、皆さんに、学校生活でたとえ困難にぶつかってもそれを乗り越えて何かを達成してほしいこと、そしてそのために「逆境に負けない心」と「回復する力」を身に付けてほしいことを伝えました。

振り返ってみると、皆さんは全ての学校行事において、その時々に目の前に立ちはだかる壁を乗り越え、精一杯努力し、たくさんの成果を上げてくれたと感じています。

まず、一番印象に残っているのは、体育祭の応援合戦で見せてくれた一糸乱れぬ演技です。演技をぴたりと合わせるには、全員が心を一つにする必要があります。心を一つにするために、皆さんがどれだけの失敗を重ね、そしてどれだけの努力をしてきたのかを想像すると、私は胸が熱くなりました。そして高校祭。色鮮やかにデコレーションされた体育館での箏曲や吹奏楽の見事な演奏、教室での展示など、野村高校のしなやかさと誠実さの詰まった内容でした。

さて、先日まで開催されていたサッカーワールドカップ・カタール大会の日本チームの活躍は本当にすばらしいものでした。堂安選手や三苫選手の奮闘が日本躍進の鍵だったことは間違いありません。ただ、そんな中、私が一番注目していた選手は、ゴールキーパーの権田修一選手でした。

ドイツ戦では２６本のシュートを打たれながら１失点しかせず、クロアチア戦では後半１８分のMF モドリッチ選手の完璧なドライブシュートをビッグセーブした権田選手は、海外での選手経験の長い完璧な人のように見えました。でも、彼は実は海外組ではなく、清水エスパルスに所属する現役Ｊリーガーなのです。

世界と戦わなければいけないワールドカップにおいて、海外での経験が乏しいことは、彼にとってきっと大きな不安材料であったに違いありません。また、調べてみると、彼は日本代表チームに招集されても第三 GK の地位が続き、それを打開するために練習しすぎて「オーバートレーニング症候群」を発症したり、体調をくずして代表を辞退したりで、森保ジャパンへの招集は実に３年ぶりだといいます。そんな権田選手の堂々たる活躍ぶりは、私たちに勇気を与えてくれましたし、彼は、まさに私が先ほど言った目の前の壁を乗り越えるのに必要な「逆境に負けない心」と「回復する力」を兼ね備えた人なのではないかと、私は思っています。

さあ、新しい年がやってきます。三学期には、二学期に乗り越えた壁よりももっと高い壁がきっと皆さんを待ち受けているはずです。その壁を乗り越えるために、まずは今の自分の状態を確認してみましょう。具体的には、一学期と二学期について思い出して、自分のやってきたことを振り返ってみましょう。その時に、気を付けるポイントは次の三つです。

①やってよかった、これからも続けてやっていきたいことは何か

②うまくいかなかったことは何か。では、どこを改善すればいいのか。

③新しくやってみたいことは何か。

時間は過ぎるものではなく、積み重なっていくものです。その積み重ねである今年一年を振り返り、来年の目標を決めることが、自分の生活を、そして自分自身を大切にすることにつながると思います。冬休みには「やってよかったこと」「うまくいかなかったこと」「新しくやってみたいこと」について振り返り、よい新年を迎えてください。以上で、式辞を終わります。